

自己評価報告書 学校関係者評価報告書

(平成27年度)

愛知産業大学三河高等学校
通信制課程 単位制

自己評価報告書 学校関係者評価報告書

平成27年度

- I 学校概要
- II 教育目標
 - (1) 学校法人 愛知産業大学建学の精神
 - (2) 愛知産業大学三河高等学校通信制課程(単位制)の教育目標
 - (3) 愛知産業大学三河高等学校通信制課程(単位制)の教育指導方針
- III 重点目標の達成及び改善方策
 - (1) 学習指導
 - (2) 校 務
 - (3) 教 務
 - (4) 進 路
 - (5) 総 務
 - (6) 指 導
 - (7) 生活相談
 - (8) 事 務 局
- IV 本年度の具体的な取り組み
- V 学校評価の具体的な取り組みや評価結果
- VI 生徒アンケート結果の総合考察
- VII 平成27年度 学校関係者評価委員会報告



I 学校の概要

- (1) 学校名
愛知産業大学三河高等学校
- (2) 課程
通信制課程
- (3) 所在地
〒444-3523
愛知県岡崎市藤川町西川向1-20
TEL : 0564-48-5230 FAX : 0564-48-8775
ホームページ : <http://asu-mikawa-tani.jp>

(4) 沿革

- 昭和58年 三河高等学校の創立が認可され、校舎を岡崎市字原山12番地の10に置く。
- 昭和58年 三河高等学校を開設。全日制課程の普通科と電気科を置く。
- 昭和60年 三河高等学校の全日制課程に情報処理科と通信制課程を設置する。
- 平成 3年 愛知産業大学の設置が認可され、校舎を岡崎市字原山12番地の5に置く。
- 平成 7年 三河高等学校の校名を愛知産業大学三河高等学校に改称する。
- 平成10年 愛知産業大学三河高等学校に単位制（普通科）を設置する。
- 平成16年 愛知産業大学三河高等学校の単位制新校舎が完成。

(5) 通信制課程の構成

学年制の生徒が在籍する技能連携校（専門学校高等課程）と本校独自の単位制で構成されている。

学年制には、普通科・商業科があり技能連携を結ぶことによって専門学校の学修を本校の単位として認定することが出来る。本校単位制には、2つのコース（午前コース・午後コース）を設けている。

(6) 技能連携校

- 名古屋情報専門学校 高等課程
あいちビジネス専門学校 高等課程
西尾高等家政専門学校 高等課程
名古屋調理師専門学校
専修学校東洋調理技術学院
豊橋ファッション・ビジネス専門学校
安城文化服装専門学校

(7) 連携校の学科構成

名古屋情報専門学校 高等課程	商業科
あいちビジネス専門学校 高等課程	普通科
西尾高等家政専門学校 高等課程	普通科
名古屋調理師専門学校	普通科
専修学校東洋調理技術学院	普通科
豊橋ファッション・ビジネス専門学校	普通科
安城文化服装専門学校	普通科

(8) 生徒数 (平成27年5月1日現在)

	単位制普通科		連携校普通科		連携校商業科		計
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
1年生	30	10	128	67	199	36	470
2年生	44	20	119	89	181	20	473
3年生	46	37	127	69	171	25	475
計	120	67	374	225	551	81	1418

II 教育目標

(1) 学校法人 愛知産業大学建学の精神

豊かな知性と誠実な心を持ち 社会に貢献できる人材を育成する

(2) 愛知産業大学三河高等学校通信制課程 (単位制) の教育目標

本校通信制課程単位制は、転学希望生徒や高校中退生徒の再チャレンジの場として、また不登校の中高生の成長の場として、高校卒業資格の取得を第一目標に指導しています。また、卒業後の進路指導についても力をいれている。

(3) 愛知産業大学三河高等学校通信制課程 (単位制) の教育指導方針

単位制の多くは、他の高等学校からの転入学生であり、学び直しを希望する編入学生である。個性豊かでいろいろな問題を抱えているが、その目標は「高等学校卒業」である。その希望に応えるため、家庭との連絡を密にして意欲と自覚を促し、単位取得と退学防止をはかる。また、わかりやすい学習指導、進路指導、悩み相談を行う。

III 重点目標の達成及び改善方策

(1) 学習指導

重 点 目 標
① 各科目の単位修得率を向上させる努力をする。
② 生徒の基礎学力向上に努める。
③ 試験による不正行為をなくす。
④ 欠課オーバーによる科目不認定者を減少させる。
⑤ 「よくわかる授業」の実践を推進する。
⑥ 授業中のマナー指導の徹底(携帯電話・スマートフォンの使用禁止、居眠り)
⑦ 授業の視聴覚教材を作成する。
⑧ 技能連携校スクーリングの新教材の作成と確認を行う。
⑨ 技能連携校におけるスクーリングを効果的に行う。
⑩ 総合学習(体験学習)を効果的に行っている。

(考察)

- ・不登校が原因で授業に出席するのがやっとの生徒が多く、生徒の理解度、基礎力向上についてはまだまだである。ほとんどの生徒は居眠りをせず頑張っているが、アルバイトをしている生徒などは欠席しがちで居眠り等がある様子である。連携校のスクーリングについてはせっかく来校していただくので、少しでも満足をしていただけるように教材内容の充実に努力している。

【課題】

- ・学力差が大きいので、全員の生徒を理解させるための工夫をする。
- ・いろいろな生徒がいるが最低限の授業マナーを守らせる。
- ・技能連携校のスクーリングの生徒満足度があるようにする。
- ・総合学習を通じ、進路に結びつけるアドバイスをする。
- ・不登校生徒に対する指導および声かけをする。

【改善方策】

- ・授業レポートの作成の段階で基本的な内容を精選し授業内容を工夫する。
- ・視聴覚教材を授業に取り入れ、わかりやすい説明に心がける。
- ・欠席・遅刻が多い生徒に対しては担任が家庭連絡を行い、保護者に周知し協力を願う。
- ・授業中のマナーについては現場で注意を与え、再三の注意指導については授業を受けさせない。
- ・常に生徒の状況を確認し、一方的な授業にならないように心がける。

(2) 生活指導

重点目標
① 登下校時のマナーはしっかりしている。
② 校内外の巡視を行い、喫煙防止を図る。
③ 車両等による通学者は許可を得てマナーを守り通学している。
④ 公共交通機関利用時のマナーとモラルの意識向上を図る。
⑤ 交通安全に対する意識を持つように指導している。
⑥ 生徒自身に、登校日を正確に把握させ、確実に登校させる。
⑦ 健康診断通知配布と共に、治療が必要な生徒に対して治療勧告を配布する。

(考察)

- ・本校は成人の生徒も在籍するので社会常識的なマナーをしっかりと守らせる必要がある。また、地元住民の方々に迷惑にならないよう駅周辺までは巡視、指導を行う必要がある。校内についてはほとんど問題はないが開講中は少ない教員で巡視する必要がある。

【課題】

- ・ 駅や学校周辺の通学路で喫煙行為があるので、その巡視と指導をする。
- ・ 周辺のコンビニ等でのマナーの指導をする。
- ・ 成人の生徒も在籍するため交通安全指導を行う必要がある。
- ・ 本校の駐車場に自動車等の駐車許可を得ていない生徒の駐駐輪場や校舎周辺の私有地への無断駐車を取り締まる。

【改善方策】

- ・ 少ない教員で登下校指導を行い指導の強化をする。
- ・ 違反生徒には保護者来校をお願いをして、指導する。また、再三の指導に従えない生徒は退学処分とする。
- ・ ポスター、「メール発信システム」を利用して注意喚起を促す。
- ・ 入学時に必ず1回は健康診断を行い、健康管理をさせる。

(3) 進路指導

重 点 目 標
① 進学率を高める努力をしている。
② 学校斡旋就職希望生徒の内定率の向上。
③ フリーター・ニート等による進路未決定者の減少を目指す。
④ 担任が自クラスの進路を把握する。。
⑤ 愛産大等姉妹校への進学を推進し、その増加を図る。
⑥ 生徒が、能力・適性に合った進路を見つけられる為の面接指導を行う。
⑦ 就職説明会、姉妹校説明会への出席を指導する。

(考察)

- ・ 以前の本校は出口指導についてはほとんどされていなかったのが現状でしたが、昨年度より生徒の進路調査などを行い、進学就職の指導を行っている。まだまだ生徒の意識は薄いですが徐々に強化していきたい。

【課題】

- ・ 進路活動に入る時期が全日制生徒と比較するとかなり遅い。
- ・ 就職に対する意識が低く、アルバイトでもよいと考える生徒がいる。
- ・ 進学、就職希望があっても目標に対する努力をしない。
- ・ 姉妹校への進学を推奨するが、強行に行くと逃げてしまう。
- ・ 担任が進路相談に慣れていない。

【改善方策】

- ・進学説明会、姉妹校説明会、就職説明会などに積極的に参加させる。
- ・体験学習などに積極的に参加させ、進路選択の幅をひろげる。
- ・愛産大単位取得コース（高大連携）を利用し内部進学率を高める。
- ・進路調査をもとに個人面談を実施する。
- ・就職・進学合格率を高めるために模擬面接、小論文指導を行う。

（４）生徒相談

重点目標
① 不登校生徒のカウンセリングを促す。
② 欠席過多の生徒や不登校の生徒への家庭連絡を適切に行う。 (家庭との連絡を密にする)
③ カウンセリングを実施して、登校率を向上させる。
④ 全日制スクールカウンセラーとの連携をとり実施している。

（考察）

- ・本年度より午後授業を開講し、不登校の生徒がかなり多く入学していただいている。先生方も声かけをしたり事前に情報をキャッチしカウンセリングを行っているが、まだまだ対応に慣れていない部分が多い。

【課題】

- ・午前授業の生徒と接触することなく午後授業を受講できるようにする。
- ・担任以外の相談できる存在に必要性がある。
- ・家庭との連携を密にとり、生徒が出校できる環境をつくる。
- ・午後授業から午前授業にステップアップするように指導する。

【改善方策】

- ・兼任スクールカウンセラーではなく常駐していただけるスクールカウンセラーをお願いし、相談したいときに相談できる状態にする。
- ・声かけをして話す機会を多し、信頼を得るように担任はつとめる。
- ・不登校に関する講習会に積極的に参加して、そのような生徒の指導ができるようにする。

(5) 生徒募集

重点目標
① 年間目標入学者数を確保する努力をしている。
② 入学相談者に対する入学率を向上させる。
③ 学校説明会を計画的・効果的に実施する。
④ 学校説明会参加人数が昨年を上回るよう努力する。
⑤ 退学者数を少なくする努力をしている。
⑥ 在籍数の多い高校を訪問して、現況報告する。
⑦ 業者による合同説明会に参加して、入学者数増に努める。

(考察)

- ・本年度より総合的学習（体験学習）の開講、午後授業の開講、ホームページのリニューアルなどのさまざまな改革により入学者数が増加傾向にある。さらに来年度も新たな改革を進めさらなる増加を考える。

【課題】

- ・説明会の周知方法を検討する。
- ・校外の学校説明会への効果的な参加を検討する。
- ・本校の強みをどのようにアピールするか。

【改善方策】

- ・転入学元の学校に「学校説明会」開催情報を適宜流す。
- ・広域制単位制との違いを学校関係者に理解していただく冊子の作成する。
- ・狭域制単位制として地域に根ざした学校教育を実戦する。

(6) 総務

重点目標
① ホームページの更新は時宜を得て行う。
② ホームページの資料請求・学校説明会の申し込みを増加させる。
③ 学校の情報を「メール発信システム」で適切に提供する。
④ 学校説明会の案内を効果的に配布する。

(考察)

- ・全日制に普通に通う生徒、保護者にはあまり必要としない本校の情報を必要とする人に伝える方法はやはりネットを利用する方法が一番である。また、三河地区の中学校においては全日制的ネットワークを利用する。

【課題】

- ・ホームページの常に新しい情報を掲載できるようにする。
- ・ホームページのアクセス数の向上に努める。
- ・三河地区の高等学校への周知方法。

【改善方策】

- ・Google、yahoo の検索広告を利用してホームページアクセス数の向上をはかる。
- ・ホームページの内容（新しい情報の更新）を教員全員でリアルタイムに更新する。
- ・在籍する生徒の前籍高校へ、状況報告を含め訪問して募集につなげる。

(7) 校務

重 点 目 標
① 校外における美化活動を行っている。
② 環境整備に気を配り、ゴミを減少させる。
③ 省エネを推進し、エネルギー委員会の目標値「前年度比で1%」となるように努力し、意識の高揚を図る。
④ 日直を中心とした校内整備を行う。
⑤ 各階担当者・教室管理者による教室整備と校内美化に努める。

(考察)

- ・新校舎でき12年程度が過ぎ、内壁・外壁の塗り替えなど計画的に整備していく必要がある。また、時代に即した視聴覚機器の導入も今後検討する必要がある。

【課題】

- ・校内の破損箇所や機器の故障が多く、業者をお願いする箇所も増加している。
- ・教員数が少ないため美化清掃や校内整備に時間が必要である。
- ・周辺の美化活動も必要であるが、毎日活動できない。

【改善方策】

- ・生徒にゴミ等を出さないように飲食禁止を徹底させる。
- ・教室等の担当教員を決め、自クラスの美化活動、節電を实践する。
- ・予算取りをして年間計画で営繕を実施する。

(8) 事務関係

重点目標
① 業務の効率化を図り、残業ゼロを目指す。
② 職員室の基幹データと共有し、データの一元管理を目指す。
③ 電話等の対応を適切に行っている。
④ 入学相談等、入学に関わる事務を適切に行う。
⑤ 就学支援金事務作業を円滑に行う。

(考察)

- ・本校の事務は事務職員と教員により業務を行っている。また、単位制だけではなく技能連携校に関する事務作業があるので、多種多様な業務があり効率化することも難しい部分がある。

【課題】

- ・単位制だけでなく、技能連携校に関する事務作業を行う必要があり、業務の縮小は難しい。
- ・教務データの一元化とデータの汎用性の相関関係が容易ではない。
- ・生徒数1500名分のデータを管理するため、かなり煩雑になる。

【改善方策】

- ・過去の卒業生データの電子化には膨大な時間がかかるため、現状のままで事務処理を行うしかない。
- ・現在のデータは早急に電算化をして事務処理の効率化を図る。
- ・事務局と教務でそれぞれ必要なデータの絞り出しを行い、一元化を進める。
- ・専任事務員を2名体制とする。

IV 本年度の具体的な取り組み

- ・午後授業の新設（不登校気味の生徒の受け入れ）
- ・総合学習（体験学習）の導入
- ・出口指導の強化（進学指導・就職指導等）
- ・学校案内のリニューアルとホームページの全面改定
- ・生徒連絡のため「メール発信システム」導入

本年度は上記の取り組みにより、入学生徒数の増加、退学率の減少に通じたことは非常によかったことである。

V 本年度評価平均の考察

学習指導 生徒指導 進路指導 生徒募集 総務 事務 の項目はほぼ昨年度並みの評価であった。また、公務（校内美化活動等）は評定平均0.3ダウンしたことは教員側が忙しく美化清掃等をできなかったように思われる。来年度は改善をしたい。さらに生徒相談の評定平均が1.9にダウンしたことは午後授業の新設により生徒相談を必要とする生徒が増加していることを意味していると思われる。来年度は改善方策を実践して改善したい。

単位制は不登校や学力不振等何らかの悩みや問題を抱えた生徒がほとんどであり、生徒数が増加すれば新たな問題が発生することは当然であるので、状況を早めに把握し対策をしていきたい。

VI 生徒アンケート結果の総合考察

本年度は91名（在校生の約半数）の生徒からアンケートを実施した。項目ごとの考察については集計結果をご覧ください。目立った点はやはり職員評価のなかにあったように、教員以外に相談する人（スクールカウンセラー）の存在の有無であるようです。不登校ぎみな生徒が多いので当然であるように思いますが、気楽に相談できる体制づくりをしていきたい。

VII 平成27年度 学校関係者評価委員会報告

1 学校教育目標に対する意見

- ・高い教育目標を掲げて評価できる。
- ・「地域に根ざした産業教育、実務教育」はどのようなところで生かされているか。
→ 電気科、情報処理科の国家試験・検定試験への取り組みや実習科目を中心に技術の習得に取り組んでいる。また、地元企業への就職により地域経済への貢献を心掛けている。
- ・今後も地域との交流を進めていただきたい。

2 教務に関する自己評価への評価・意見

- ・特に意見はなく、取り組み及び自己評価は適切であると判断できる。

3 指導に関する自己評価への評価・意見

- ・通学途中でも、スマホをしている高校生、読書している高校生、勉強をしている高校生等高校によってさまざまである。生活面から、社会に対応できる人間を育てていただきたい。（生活指導の強化）
- ・部活動の地域交流は評価できる。
- ・名鉄藤川駅の生活指導を熱心に行っている。私学としての厳しい姿勢があると感じられる。

4 総務に関する自己評価への評価・意見

- ・卒業式の式辞に感銘を受けた。(佐藤一斎の言志四録を引用)校長の学校に対する熱い想いが感じられ、それが式に於ける生徒の態度にも表れている。
- ・皆勤で卒業する生徒が多い。家庭との協力が生かされている結果であると感じる。

5 学年に関する自己評価への評価・意見

- ・基礎学力の向上や欠席率、転退学率の減少を目指して、改善方策の実践に努めていただきたい。

6 事務に関する自己評価への評価・意見

- ・特に意見はない、取り組み及び自己評価は適切であると判断できる。

7 その他(全般)意見

- ・地域交流同好会や放送部・ボランティアが学区内納涼祭り、防災訓練、福祉施設ボランティアに参加していただいている。地域に密着した行動が見受けられる。部活動が地域の活動に参加できる環境にあり、地域の方々からも評価を頂いている。
- ・藤川地区では、まちづくりに於いて大学・高校・中学校を含めて一緒になって今後もやっていきたい。
- ・円の中に「人」と言う字を書くと、三つの空間に分かれる。地域、学校、家族の三つのサイクルがうまく回れば良い結果が生まれる。今後もさらに地域密着型の学校になってもらいたい。
- ・保護者アンケートの意見を反映して、改善すべきところは改善して頂きたい。
- ・地域の方が学園祭等に参加できる環境になれば、更に地域密着の学校として特色が出る。

以上